

21 世紀を生きる生徒の資質・能力を育む ～ SDGs の学習における新聞活用を通して～

佐渡市立新穂中学校

1 N I E 実践のねらい

(1) 学習指導要領等から

学習指導要領前文（平成 29 年 3 月）には、「一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることのできるようになることが求められる」と明記されている。そこで、総合的な学習の時間に SDGs（持続可能な開発目標）の学習を取り入れ、その中で新聞を活用することで、学びをより深め、資質・能力の向上を目指した。

(2) 生徒の実態から

生徒は親和的で穏やかで寛容性が高い。興味・関心を抱いたことには熱心に取り組むことから、知的好奇心の高さがうかがえる。その一方で、令和元年度の全国学力・学習状況調査では、「地域や社会を良くするために何をすべきか考えることがある」が 19.1%、「地域や社会のできごとに関心がある」が 25%、「新聞を読む」が 9.6%、また通知表の「読解力・思考力・判断力・表現力の A 評価」が 40.3%等で落ち込みが目立つ。そこで、生徒が自ら課題を見つけ、解決に向けて他と意見を交流してより良いものになることができるようになれば、目指す生徒像に更に近づけると考え本主題を設定した。具体的には、情報を正確に読み取る力、情報を利活用し新たなものやより良いものを創り出す力、他者が表現した「こと」や「もの」を受け止める力、自分の思いや考えを正しく相手に伝える力等を伸ばしたいと考えた。

(3) SDGs の学習から

SDGs の学習における新聞活用を目指した理由は以下のとおりである。

- ①生活が教材になるため、生徒が学習を身近に捉えることができる。
- ②生徒の生活経験や既有知識が一定程度共通しているため、同じスタートラインから学習を進めることができる。時には逆転現象が起こる。
- ③これまで総合的な学習の時間で行ってきた「佐渡学」の活用をはじめ、全教育活動との関連を図ることができる。
- ④新学習指導要領で目指す三つの資質・能力を伸長させることができる。

2 本年度実践の概要

(1) 目指す生徒像

身近なことも世界のことも、持続可能な暮らしの観点から、課題とそのつながりを探究し、共に生きる公正な社会の創造のために、地球的課題の解決に向けて主体的・協働的に足元から行動できる生徒。

(2) 目指す資質・能力

①知識・技能

ア【システム思考】様々な諸課題の背景や構造を知り、私たちの生活とのつながりを理解できる。

②思考力・判断力・表現力等

イ【予測】現状や要因を理解した上で、ありうる未来を考え、ありたい未来を描くことができる。

ウ【戦略】自分や仲間の強み、周りの資源を生かし、事を成し遂げる効果的な道筋を立てることができる。

エ【批判的思考】幅広く情報を収集・吟味し、根拠や証拠に照らし合わせて論理的に考えることができる。

オ【協働】自分の考えを分かりやすく伝え、他者の異なる視点や認識から学び合うことができる。

③学びに向かう力・人間性等

カ【統合】地域や社会に関心をもち、様々な人と関わり、力を合わせて課題を解決しようとしている。

キ【規範】多様な考え方や価値観等を受け止め、人権や多様性を尊重しようとしている。

ク【自己認識】より良い自分や取組を目指し、学びや経験を内省し、粘り強く取り組もうとしている。

(3) 全体構想

①新聞の活用方法について理解を深めるために、新聞社から講師を招き、生徒が学習する機会をもつ。

②事前学習では様々な方々に協力を仰ぎ、多様なテーマを取り上げ、生徒の興味・関心を喚起する。

③生徒のグループ編成については、関心の高いSDGの目標を選ぶだけではなく、具体的な内容や活動場所等、より細かなアンケートを実施し、興味・関心の近い者同士で学年混合のグループを組む。

④調査、企画、実践タイムの目安や要諦は示しつつ、各グループの進度に合わせて柔軟に取り組む。

⑤学校運営協議会や地域の方々等、パートナーの視点を持ち、協働できる体制をつくる。

⑥事前・事後アンケートやOPPシート等を活用し、生徒の変容や探究活動の成果を探る。

(4) 指導計画 (全 48 時間)

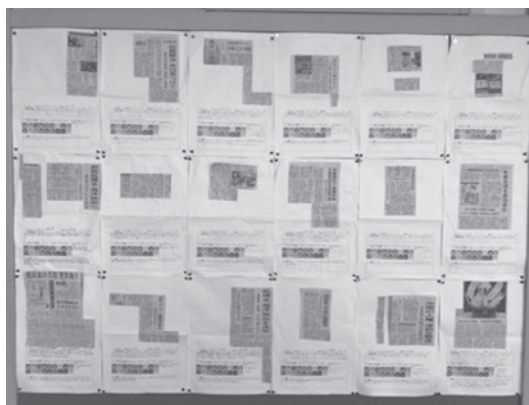
期日	時数	内容	形態
5 月 12 日	1	全体ガイダンス ・事前アンケート, SDGs の概略, 今後の流れ	全校
5 月 17 日	1	事前学習① ・思い描く 2030 年の世界と佐渡, そして私 ・昨年度の実践発表	全校
5 月 20 日	2	事前学習②【島外講師・オンライン】 ・気候変動 講師: 谷口たかひささん(環境活動家)	全校
5 月 24 日	2	事前学習③【島外講師・オンライン】 ・エシカル 講師: 青井彩乃さん(認定 NPO 法人 ACE)	全校
5 月 26 日	2	事前学習④【島内講師】 ・佐渡の魅力と課題 (パネルディスカッション) 講師: 川上高広さん(佐渡市役所観光振興課) 板垣 徹さん(新穂地域づくり協議会) 山本絵里子さん(ヤマモトドッグスクール) 豊田光世さん(新潟大学佐渡自然共生科学センター) 相田忠明さん(米農家, 新穂中央青年会)	全校
5 月 31 日	1	テーマ決め (班・個人) ・事前学習の振り返り, 「自分が最も何とかしたいと思ったことは何か? それはなぜか?」を考え, 対話を行い, 最後に個人で希望テーマを記入する。	学年 全校
学年混合で興味・関心の近い生徒でグルーピングをする			
6 月 14 日	2	課題収集 (個人) ・新潟日報社の原正紀さんから新聞について学ぶ。 ・SDGs に関する記事を収集し, 分類する。	全校
6 月 18 日	2	課題設定① (個人・班) ・個人で問題, 理想の状態, 原因, 改善策を考える。 ・班で考えをまとめ, 他の班と意見交流をする。	学年 班 全校
6 月 23 日	2	課題設定② (個人・班) ・班を最終決定し, ミニレクを通して交流する。 ・班で調査内容を整理し, 調査方法と分担を決める。	全校 班
6 月 29 日	2	調査タイム① (個人) ・調査内容 (現状, 背景, 解決への取組等) を本, 新聞, ネット, アンケート等複数の方法で調べる。	班
6 月 30 日	1	調査タイム② (班) ・個人で調べたことを班で共有する。	班
	1	企画タイム① (個人・班) ・案を出し合い, 効果と実現性の軸で整理する。	

7月6日	2	企画タイム②（班） ・班でアイディアを絞り，具体的な内容を考える。 ・地域におけるパートナーも描けるとよい。 ・企画の効果を検証する方法も考える。 ・他の班とアイディアを交流し，練り上げる。	班
7月8日	2	中間発表に向けた準備①（班） ・発表の構成や分担決め，発表資料の作成を行う。	班
7月12日	2	中間発表に向けた準備②（班） ・班で準備を仕上げ，発表練習をする。	班
7月16日	2	中間発表会 ・これまでの調査とアクションプランについて発表し，他の班やゲストの方々と意見を交流する。	全校
7月20日	1	中間発表会の振り返り（班） ・中間発表で得た意見等を参考に，アクションプランを修正し，夏休み中にやることを明確にする。	班
必要に応じて個人，班，学校，家庭，地域等で夏休み中に準備・実践する			
9月1日	1	夏休みの実践共有と計画立て（班） ・夏休み中の各自の調査や取組を班で共有する。 ・実践タイムについて全体で確認し，計画を立てる。	全校 班
9月15日	2	実践タイム①②③④⑤（班）	班
9月30日	2	・班でアクションプランの準備や実践をする。地域	
10月7日	2	で実行したい班は地域に出て，校内で実行したい	
10月13日	2	班は校内で行う。全校生徒に向けて調査や発表等	
10月14日	2	が必要な場合は，日程を調整して行う。	
10月27日	2	実践の振り返りと最終発表に向けた準備①②（班）	全校 班
11月4日	2	・発表会の持ち方について全体で確認する。 ・各班が実践の効果や変容を振り返る。 ・実践内容と検証，まとめを加えて発表準備をする。	
11月10日	2	最終プレ発表会 ・各班の発表や対話を通して，SDGsを更に広めて実践していくための戦略を立てる。	全校
11月15日	1	最終プレ発表会の振り返りと最終準備（班） ・プレ発表会を振り返り，発表内容を練り上げる。	班
11月16日 2年次研究発表会	1	最終発表会 ・地域のオブザーバーの方々も参加し，プレ発表とは違うグループで発表を行い，議論する。	全校
11月17日	1	全体の振り返り ・自己と班の取組（成果と課題）をまとめる。 ・今後も活動する班は，見通しを確認する。	班

3 実践例

(1) 新聞切り抜きスピーチ

各学年、短学活で新聞切り抜きスピーチを行った。各社の新聞の中から、関心を持った社会事象に関する記事を切り抜き、記事の要約、SDGsの関連、記事から考えたことをまとめ、発表した。特に2,3年生は、多様なアクションプランを考えられるように、課題解決を試みた記事を中心に探した。切り抜いてまとめた記事を廊下に掲示し、他学年でも見られるようにした。



(2) 新聞の読み方講座

新潟日報社の原正紀さんから新聞の読み方等についてお話していただき、社会課題やアクションに関する記事を収集した。

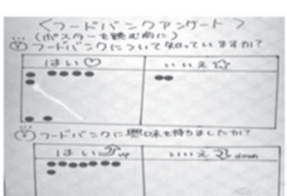


<生徒の振り返り>

- ・今までは興味があるところしか新聞を見ていませんでした。この授業で「関連ページ」があることを知ったので、もっと細かいところまで読んでみたいと思いました。
- ・SDGsに関する新聞記事のスピーチ発表で、たくさんの記事から気になるものを見つけることに苦労したので、今回知った「最初の5行」を試してみたいです。
- ・心に残ったことは、「言いたいことは早く書け。伝えたいことは早く伝えろ」という言葉です。その時の気持ちを素直に伝えることがとても大切なのだと思いました。
- ・原さんのお話を聞いて、改めて新聞のすごさが分かりました。いかに読者に情報を伝えるか。多様な工夫と努力がお話から伝わってきて、それを聞いてから再び新聞に目を落とすと「確かに」と思いました。もっと新聞を読みたいです。

(3) 実践タイム

各班、試行錯誤しながら次のような取組を行った。

 1班：海ゴミ 地域のゴミ調査とマップ作り	 2班：海ゴミ 新穂の川と加茂湖のゴミ拾い	 3班：海ゴミ 海のゴミ拾いと回覧版作成	 4班：海ゴミ 海ゴミの変容調査
 5班：陸の豊かさ 生椿イベント	 6班：服のゴミ 裂織りイベント	 7班：観光 新穂の観光動画制作	 8班：動物との共生 全校説明と募金
 9班：気候変動 募金と学校・地域での植樹	 10班：気候変動 チラシ配布とWPO募金	 11班：気候変動 ポスター制作とピンゴ	 12班：エネルギー 電力に関する調査とFacebookへの投稿
 13班：貧困・飢餓 特別支援学校への説明	 14班：ジェンダー 全校説明とアンケート実施	 15班：貧困・差別 動画・ポスター制作と小学校での説明	 16班：児童労働 ACEへの募金と小学校での説明

中学生撮影技術を学ぶ

地域の魅力を発信する動画製作に取り組み、佐渡市立新穂中学校の生徒が20日、新穂地区のシニアセンターを訪れ、動画撮影の技術を学ぶ。同校は国連が定める「持続可能な開発目標（SDGs）」の目標11「住み続けられるまちづくりを」をテーマに、地域の魅力を発信する動画を製作している。

佐渡 地域伝える動画製作へ

この取り組みは、インバウンド（訪日外国人）の受け入れ環境整備に取り組み、「トキの聖地」をテーマに、地域をPRする動画を製作している。生徒らは、シニアセンターの職員から、地域の歴史や文化について学び、動画撮影の技術を学んだ。

トキの聖地 自然に触れ

生穂 新穂中学生が紹介企画

国連が定める持続可能な開発目標（SDGs）の目標11「住み続けられるまちづくりを」をテーマに、佐渡市立新穂中学校の生徒が、地域の歴史や文化について学び、動画撮影の技術を学んだ。

生徒らは、シニアセンターの職員から、地域の歴史や文化について学び、動画撮影の技術を学んだ。

2021年8月24日付け、読売新聞

2021年9月28日付け、新潟日報

4 成果

(1) 全国学力・学習状況調査の生徒質問紙から

以下は、本実践を始める前年に当たる令和元年度と今年度の比較で、上昇が顕著な項目である。③の新聞に関する項目を含め、令和元年度よりも上昇し、特に④に関しては全国と比べて 20 ポイントも高い値となっている。

項目	令和元年度	令和3年度(元年度比)	
	新穂中	新穂中	全国
①難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか	43	72 (+41)	66
②人の役に立つ人間になりたいと思いますか	76	96 (+20)	95
③新聞を読んでいますか	19	28 (+9)	23
④地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか	19	64 (+45)	44
⑤総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集めて整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか	43	88 (+45)	75
⑥課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか	67	84 (+17)	81
⑦自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるように、資料や文章、話の組立てなどを工夫して表していたと思いますか	43	64 (+21)	62

(2) 生徒の事前・事後アンケートから

以下は、事前（5月）・事後（10月）両日出席生徒 68 名のアンケート結果（4件法）を、一要因参加者内の分散分析で判定したものである。項目ア～クは本実践で目指す資質・能力であり、そのほとんどに上昇が見られ、8 項目のうち 6 項目（編みかけ）において有意に上昇した。

項目	平均値		有意差検定
	事前	事後	
ア 様々な課題の背景を知り、私たちの生活とのつながりを理解できていますか	2.87	3.22	F(1,67)=13.67, p<.01**
イ 様々な課題を理解した上で、望む未来を描くことができますか	2.74	3.13	F(1,67)=17.83, p<.01**
ウ 自分や仲間の強みや様々な人を生かしながら、望む未来に向けて効果的な取組を計画することができますか	2.56	2.96	F(1,67)=14.29, p<.01**
エ 幅広く情報を集め、根拠にもとづき、筋道を立てて考えることができますか	2.57	2.94	F(1,67)=15.47, p<.01**
オ 自分の考えを分かりやすく伝え、他の人の異なる視点や考えから学び合うことができますか	3.04	3.03	F(1,67)=0.02, n.s
カ 地域や社会に関心を持ち、様々な人と関わりながら、力を合わせて課題を解決しようとしていますか	3.00	3.28	F(1,67)=10.56, p<.01**
キ 多様な立場や考え方を受け止め、違いを認め合おうとしていますか	3.32	3.38	F(1,67)=0.36, n.s
ク より良い自分やより良い取組を目指して、学びや経験を振り返り、粘り強く取組もうとしていますか	3.15	3.37	F(1,67)=4.65, p<.05*

(3) 生徒の記述から

以下は、授業最終日に行った生徒の振り返りの記述である。昨年度の経験を活かしてより良い取組をすることができ、日常の行動変容にもつながっている。また、様々な人と出会い、協力し合うことの大切さについて身をもって感じていることが窺える。さらに、来年度への意欲が感じられる記述が目立った。

- ・ 班で考えた取組について、去年はポスターを貼るだけだったけど、今回は小学校に行って児童労働について話したり募金活動をしたりするなど、実際に行動に移して取り組むことができた。
- ・ 学習前は「気候変動はやばいな～」などと危機感がなかったけど、学習後は前よりもニュースを考えながら見るようになったし、無駄な電気を使わないように自然と心がけるようになった。
- ・ **SDGs** 学習を通して、人と人とが支え合っていく力を感じた。**SDGs** は一人で解決するものではなく、皆の力があるからこそ解決できるものだったと思った。
- ・ **SDGs** の学習を始めてから、たくさんの人と出会うことができた。実際に自分たちの取組にも協力してくださった人もいて、たくさんの人に支えられていた。
- ・ 地域の人たちにも **SDGs** に興味をもってくれる人がたくさんいることが分かってうれしかった。だから次は、もっと地域の人とも協力できる企画をしたい。

(4) おわりに

本実践を通して、生徒の中に様々な価値を生み出し、21世紀を生きる生徒の資質・能力の育成に寄与することができた。「社会に開かれた教育課程」の実現が求められている中、学校内に止まらず、学校外の方々から積極的に学び、地域に出て様々な人に働きかける生徒の姿は、教師の想像を超えることが何度もあり、1年次の実践より充実した取組となった。

「何を理解しているか」だけではなく、「何ができるか」が問われている今の時代において、大人でも「よく分からない」ことをいかに学習の場面に持ち込めるか、いかに教師も楽しむことができるのかが問われていると思われる。また、従来型の知識偏重の授業よりも生徒の自主性が高くなるため、教師にとっては見通しがつけにくく、探究過程における指導が難しかった。テーマについて生徒が追究する過程で、その生徒の学びや状況を見とり、さらなる学びを促していけるかが鍵になると考える。

今後の課題としては、生徒がより身近に自分ごととして課題を捉える工夫、グループ編成、探究過程における教師の指導やファシリテーション、カリキュラムマネジメント、学習の成果物の保存と次年度への活用等が考えられる。今年度の問題点を挙げ、改善策を検討し、次年度以降に活かしていきたい。

(小黒 淳一)